

たのですが、もっと物質科学的なサイエンスの道を歩みたいと身体医学の門をくぐることになりました。自然科学では普遍性と再現性が重要で、その上に多くの人々がバトンを渡しながらか知識を積み上げていきます。また、臨床とともに基礎医学研究ができることにもこだわりました。ただ、最初に基礎医学研究をすると臨床に戻れないような気がして、まずは臨床医学に進むことにしました。皮膚科を選んだきっかけは恩師との出会いでしょうか。大学を卒業するとき、ここでも何人の教授に逆面接をさせていただきました(笑)。世界最先端の研究をキーワードにしていたのですが、世界に打って出るぞという意欲を一番強く持たれていたのがその時の皮膚科の教授でした。免疫アレルギーの分野が面白そうだったこともあり。実は、当初臨床面で皮膚科は守備範囲が狭いと高をくくっていたのですが、入ってみると皮膚科は私が思っていたよりはるかに広く、深い分野でした。内科や外科は、レントゲンやCTを撮って外からは見えないものを診ますが、皮膚科は誰の目にも見える皮膚の症状を診て、多くの人には分からない本質を見抜き、かつ治療する仕事であり、学問する分野です。皮膚に症状が現れていれば何でも診ます。様々な所見、症状を見たり、聞いたり、触ったりしながら、原因は何だろう、この中で何が起きているのだらうと、いつもその現象の本質を考えている気がします。しかし、これは皮膚科に限らずサイエンスの原点かと思ひます。そしてそれを解き明かすにはどういうことをしたらいいだろうと考えたり、比較的簡単に材料をとって調べたりすることもできる点で、とても楽しい領域です。

会：海外留学をされていますが？

秀：まずワシントンDCの郊外にあるNIH(アメリカ国立衛生研究所)に1年半行きました。NIHは世界最大、最先端の研究所で、自分がこんなところにいるのもいいかと思うような夢のような留学生活でした。その後、医局の事情もあってロンドンに行きました。日本と世界の大きな違いを感じたのはイギリスに行ってからです。自分はようやくここまで来たと思っていた研究分野の最先端で、まだ若い大学院生が、教授とこれから

教科書に書かれていくであろうことをディスカッションしている姿を目の当たりにし、大きな衝撃を受けました。自分は山の裾野から登ってようやくてっぺんまできたのに、その大学院生はまるでヘリコプターに乗って一気に山頂に来て研究しているように見えました。自分たちが教科書のページを書き加えていくという感覚や、世界のトップレベルの人たちとごく普通に交流できることは素晴らしい体験でした。高校時代には実現しませんでした。私は早い時期から留学を目指していました。家はあまり裕福ではありませんでしたし、当時は今よりずっと円安で、何とか他所から助成金を得ようというもアンテナを張っていました。チャンスが巡ってきたのは大学院も終わろうという頃でした。学生掲示板に貼ってあった国際ロータリークラブの海外留学支援制度に応募し、1年間分の生活費と渡航費を頂きました。その後は留学先で実績が認められ、アメリカ、イギリスと博士研究員として給料を得ることができました。

会：大学病院ではどういうお仕事になられましたか？

秀：大学病院での仕事は診療、教育、研究が3本の柱です。大学病院では重症、難治例を中心に診療し、研究をして論文を書きます。後輩の医者、学生の教育も大切な任務です。教授になってからは週に3~4コマ(2日分に相当)の診療とカンファレンス、研究、教育の毎日でした。しばらくしてからは、入試の担当や医学部長、さらには副学長として大学の運営や、日本皮膚科学会をはじめとするいくつかの学会の運営にも携わりました。

会：広島市民病院、現職について教えてください。

秀：広島市民病院は広島で最大、最高の市中病院です。医師の質も高く、患者さんの数も多くて高い医療技術レベルを維持しています。主に岡大と広大から多くの優秀な医師が集まり、人材には恵まれていると思います。医師以外のメディカルスタッフ、特に看護部の教育システムは充実しており、がん、脳・心臓血管疾患と新生児医療では広島県ならびに近隣地域の中核的な役割を果たしています。また、今の日本の医療制度では1つの病院だけで医療が完結するこ

とはなく、市内の多くの病院と連携しています。病院長としては、堅実な病院経営を行いつつ、コロナ禍の中でこの病院がいかに地域での役割を果たすかということを考えています。また、公立病院が故に市民の健康に対する期待や要望にどう応えるかということも大きな命題です。お酒の飲み過ぎによる急性アルコール中毒の様な人から、脳溢血や心筋梗塞などの重い疾病まで、様々な救急医療に積極的に対応しています。近未来的には、大学人事だけでなく、全国からここで学びたいという人が集まり、一定期間働いて力をつけ、また日本中に巣立っていくような病院にしたいと思っています。

会：好きな言葉や座右の銘があれば教えてください。

秀：「偶然を必然にする力」ですかね。私自身「ここまで二度と通れない道をいくつも通ってきた」と思っています。附属入学とアメリカ留学、教授になったことは自分が願う通りの選択でしたが、それ以外の多くは選択の余地のない道のりでした。あつ、結婚相手も自分が最高と思った選択でした(笑)。ともあれ、後ろが崩れつつある橋をたくさん渡ってここまでできた気がします。同じ人生をもう1回やってみると言われてもできそうにありません。自分の思うようにならないことはあるけれど、その「偶然」を意味のあるようにするかどうか、今の自分にとって「必然」のことであつたと言えるようにするか否かはその人次第だと思います。

会：アカシア会についてご意見をお願いします。

秀：素晴らしい組織だと思います。先輩や後輩から「アカシア」ですと言われると、「アカシアかあ」と一体感を覚えますね。他校の出身者は群れることも多いと思いますが、附属の卒業生には一匹狼が多いと思います(笑)。私はアカシアということに誇



ロミオとジュリエット
(本人: 左)



教室で文化祭練習

名簿購入・運営会費納入 振込先：ゆうちょ銀行 店番 139 当座 0013111 アカシア会